

略 年 譜

- 明治15年 (1882) 8月 1日 東京都本郷区本郷4丁目39番地に父量、母ちせ、の次男として生る。
- 37年 7月 第一高等学校第1部文科卒業、東京帝国大学文科大学史学科に入学、翌年9月哲学科に転科。
- 40年 7月 東京帝国大学文科大学卒業、大学院に進学。
- 41年 4月 明治学院講師、大正7年8月に至る。
- 42年 12月 渡辺荘長女貞と結婚、麴町区1番町に住む。
- 45年 7月 大学院に卒業論文「アレクサンドリアのクレメンスの哲学」を提出。
- 大正6年 10月 早稲田大学講師。
- 7年 9月 東京帝国大学文科大学講師。
- 8年 4月 東京女子大学講師。
- 10年 4月 東京帝国大学大学院卒業により文学博士の学位を受く。
4月 文部省在外研究員として、ドイツに渡航、10月ハイデルベルク大学に入学。
8月 東京帝国大学助教授に任ぜられる。
- 11年 10月 スイス、バーゼル大学に転ず。
- 12年 4月 フランスに移り、次でイギリスを経て、10月4日帰任。
東京帝国大学文学部哲学第2講座分担。
- 13年 6月 東北帝国大学の招聘を受け、仙台に移る。
7月 東北帝国大学教授、法文学部哲学第2講座担任。
- 昭和2年 4月 仙台市同心町38番地に住宅を新築、転居。
- 9年 10月 東北帝国大学法文学部長、昭和12年7月に至る。
- 12年 11月 同大学図書館長。
- 15年 9月 同大学を辞任、嘱託講師となる、昭和18年9月に至る。
12月 東京女子大学長。
- 16年 5月 東京都杉並区上荻窪1丁目219番地に転住。
- 23年 4月 新制東京女子大学長、7月31日学長辞任、同名誉の称号を受く。
- 25年 4月 青山学院大学文学部講師、昭和27年4月教授、昭和36年3月辞任。
- 27年 10月 日本基督教会初代理事長、昭和41年名誉理事。
10月 日本基督教団常議員、昭和31年10月辞任。
- 28年 4月 中世哲学会初代委員長に就任し、のち会長となる。
10月 日本学士員会員。

- 35年 4月 信濃町教会名誉長老となる。
 10月 紫綬褒章を授与される。
- 37年 11月 文化功労者として顕彰される。
- 39年 11月 勲二等旭日重光章を授与される。
- 41年 1月 宮中御講書始に“アウグスティヌスの平和思想”について
 御進講
 4月 病気のため一切の公職を辞す。
- 48年 3月 ドイツ、ハイデルベルク大学より名誉神学博士の学位を受く。
 11月 文化勲章を授与される。
- 49年 4月 東北大学名誉教授の称号を受く。
- 昭和51年 7月 4日 永 眠
 (1976) 勲一等瑞宝章を授与される。

業 績 目 録

著書・訳書

- シュライエルマッヘル著，石原謙訳，「シュライエルマッヘル宗教論」，内田老鶴圃，大正3年
- 「宗教哲学」(哲学叢書)，岩波書店，大正5年
- ハンス・フォン・シューベルト著，「宗教改革の世界史的意義」，石原謙訳註及び著者小伝，岩波書店，昭和6年
- マルティン・ルター著，石原謙訳，「基督者の自由，他三篇」，(岩波文庫)；岩波書店，昭和8年，「キリスト者の自由，聖書への序言」，新訳，昭和30年
- 「基督教史」，(岩波全書)，岩波書店，昭和9年；増補版，昭和13年；増訂版，昭和26年
- 「新約聖書」，(大思想文庫)，岩波書店，昭和10年，昭和22年
- マルティン・ルター著，「信仰要義」，(岩波文庫)，石原謙訳，岩波書店，昭和14年
- 「マルティン・ルターと宗教改革の精神」，教文館，昭和19年
- 「キリスト教思想史」，(角川全書)，角川書店，昭和24年
- 「中世キリスト教研究」，岩波書店，昭和27年
- 「学究生活の思い出」，石原謙博士文集刊行会，中央公論社発行，昭和34年
- 「日本キリスト教史論」，新教出版社，昭和42年
- 「宗教改革者ルターとその周辺」，新教出版社，昭和42年
- 「キリスト教の源流—ヨーロッパ・キリスト教史上巻」，岩波書店，昭和47年

- 「キリスト教の展開—ヨーロッパ・キリスト教史下巻」, 岩波書店, 昭和47年
- 「キリスト教と日本—回顧と展望」石原謙 松村克己, 中川秀恭共著, 昭和51年, 日本基督教団出版局
- 「死と終末論—中世キリスト教における死生観」昭和51年10月刊行予定

論文

一 旧新約聖書および原始キリスト教に関する論文

- 「紀元前後における救済問題及びロゴス論」 明治四一年二月～四月 『哲学雑誌』 (三回)
- 「世界創造に関する猶太教及び初代基督教の思想」 明治四一年九月 『哲学雑誌』
- 「羅馬に於けるシーザー崇拜と基督教」 明治四四年四月 『宗教と文芸』 (三回)
- 「ヘレニズム時代の宗教思想」 大正九年一〇月 『理想』
- 「旧約詩人の宗教」 昭和一二年九月 『理想』
- 「旧約宗教の人間観について」 昭和一三年九月 岩波書店 『哲学及び宗教と其歴史』 (波多野精一先生献呈論文集)
- 「第四福音書プロローグの解釈学的研究」 昭和三四年七月 青山学院大学基督教学会 『基督教論集』 第七号
- 「使徒行伝におけるパウロの説教」 昭和三六年二月 『基督教論集』 第八号 (松本卓夫博士祝賀論文集)
- 「原始キリスト教史」 昭和四〇年八月 『聖書講座第Ⅳ巻, 新約聖書Ⅱ』
- 「グノーシス主義の研究 特にそのキリスト教史的的位置について」 昭和四九年六月 『聖書学論集10号』
- 「歴史文学としての使徒行伝とその基本概念」 昭和五〇年一二月 『西洋精神の源流と展開, 神田盾夫博士喜寿祝賀論文集』

二 古代哲学に関する論文

- 「プラトン哲学」 大正一二年 近代社 『哲学講座』
- 「ピオス・テオレーティコス」 大正一四年一月 『思想』
- 「プラトンの対話篇メノンについて」 大正一四年四月 『哲学雑誌』

三 教父および中世キリスト教に関する論文

- 「アレクサンドリアのクレメンスと希臘哲学」 明治四五年一月 『哲学雑誌』

- 「アレクサンドリアのクレメンスの哲学」 大正六年六月 『宗教研究』
- 「エックハルトの著作本文」 昭和二年二月 『思想』
- 「エックハルトにおけるたましいの教」 昭和二年三月 岩波書店 『得能文
博士還暦祝賀論文集』
- 「エックハルト研究の過去と現在」 昭和三年三月、四月 『思想』（二回）
- 「エックハルトの“弁明書”の新発見について」 昭和三年一〇月 『哲学雑
誌』
- 「ドイツ神秘主義」 昭和五年 岩波講座 『世界思潮』
- 「エックハルトの神秘主義について」 昭和九年四月 『文化』
- 「エックハルトの神秘主義の特質について」 昭和九年一一月 『哲学雑誌』
- 「エックハルトにおける‘Sunder Warumbe’の意義について」 昭和九年一一
月 『哲学雑誌』
- 「エックハルトにおける *Fruitio Dei* の思想」 昭和一〇年八月 東北帝国大
学法文学部十周年記念 『哲学論集』
- 「中世独逸の基督教」 昭和一八年一二月 『日独文化』
- 「カトリック主義とその教会」 昭和二三年九月 教文館 『教会—その形成
と課題』
- 「アウグスティヌス、基督の証人」 昭和二四年四月 『基督教文化』
- 「アウグスティヌスの内的発展について」 昭和三〇年五月 『基督教論集』
第三号
- 「歴史哲学者としてのアウグスティヌス 神国論第一八卷乃至第二〇卷研究
試論」 昭和三〇年一二月 上智大学編 『聖アウグスティヌス研究』
- 「アウグスティヌスにおける歴史哲学的基礎概念」 昭和三一年三月 『基督
教論集』 第四号
- 「中世の教会」 昭和三一年五月 教文館 『現代キリスト教講座』 第三卷
- 「アウグスティヌスにおける平和の概念 神国論第一九卷研究」 昭和三三
年五月 『テオロギア・エキュメニカ 菅岡吉先生記念論文集』
- 「キリスト教弁証文学の成立について」 昭和三六年一〇月 『中世思想研
究』 第四号
- 「ユスティヌス研究序説——その著作と人物とについて——」 昭和三七年
七月 『原始キリスト教研究』（村田四郎博士記念論文集）
- 「教会神学者としてのユスティヌス」 昭和三七年一〇月 『基督教論集』
第九号
- 「日本の神学における問題点 一般歴史学との話し合い、中世教会史をめぐ
って」 昭和三八年八月 日本基督教学会 『日本の神学2』

- 「キリスト教歴史学の成立Ⅰ」 昭和三八年一〇月 『基督教論集』 第一〇号
- 「アウグスティヌスの初期著作とそのキリスト教的性格」 昭和三九年一二月 創文社 『宣教と神学』
- 「Augustinus とその平和思想」 昭和四一年四月 『東京女子大学報』
- 「下村寅太郎著『アッシシの聖フランシスコ』の書評」 昭和四一年九月 『日本の神学5』

四 宗教改革および近世キリスト教に関する論文

- 「ルターに於ける権威思想並びに自由の概念」 大正四年三月 『哲学雑誌』
- 「ルターと神秘主義」 大正六年四月 『哲学雑誌』
- 「宗教改革史」 大正六年五月～八月、一〇月、一一月 『思潮』（六回）
- 「宗教改革史余談」 大正六年九月 『思潮』
- 「ルターの文化史的意義」 大正七年三月、四月 『思潮』（二回）
- 「カント哲学と基督教精神」 大正七年六月 『思潮』
- 「シュライエルマッヘル」 昭和五年 岩波講座 『世界思潮』
- 「宗教改革と大学」 昭和一〇年一〇月、一二月 『文化』（二回）
- 「マルティン・ルターの死についての教」 昭和二一年六月 『死の理解』
- 「宗教改革における政治と宗教」 昭和二四年五月 『基督教文化』
- 「メランヒトン、基督の証人」 昭和二五年一〇月 『福音と時代』
- 「コーブルクにおけるルター」 昭和二六年一月、二月 『基督教文化』（二回）
- 「ルターにおける教会概念の成立」 昭和二六年一一月 『福音と時代』
- 「ルターの九十五ヶ条提題とその解説」 昭和二八年三月 『基督教論集』 二号
- 「エラスムスとその宗教」 昭和三四年一二月 『東京女子大学学報』
- 「自由と愛」 昭和三八年一月 『福音と世界』
- 「宗教改革と人文主義の交流について Ph.Melanchton」 昭和四二年六月 『キリスト教と文化』
- 「ロキ・コンムネス」 昭和四二年六月 『キリスト教と文化』

五 キリスト教全般に関する論文

- 「教会」 昭和一五年 岩波講座 『倫理学』
- 「基督教倫理学」 昭和一五年 岩波講座 『哲学』
- 「キリスト教史の高潮と退潮」 昭和三〇年一一月 茨城県基督教短大 『ア

ジアにおけるキリスト教』

- 「キリスト教」 昭和三二年三月 平凡社 『世界百科大事典』 第六卷
- 「キリスト教史総論」 昭和三七年八月 『日本の神学』
- 「異端の系譜と意義について、研究フォーラム」 昭和三七年九月 『日本の神学11』

六 東洋および日本キリスト教史に関する論文

- 「明治時代基督教史序説」 昭和二一年一月 『基督教文化』
- 「中国伝道の開拓者」 昭和二五年九月 東京女子大学 『論集』 第一巻第一号
- 「中国プロテスタント宣教史、概観と時代区分」 昭和二八年一二月 『論集』 第四巻第一号
- 「中国キリスト教史」 一～三 昭和二九年三月～五月 『福音と世界』（三回）
- 「東洋伝道の回顧」 昭和二九年六月 日本聖書神学校 『聖書と神学』
- 「日本キリスト教の思想史的動向」 昭和三三年五月 『理想』
- 「日本キリスト教の歴史的意義と展望」 昭和三四年一月 『福音と世界』
- “The Historical Significance of Japanese Christianity. A Historical Background” 1959, Japan Christian Quarterly.
- 「東洋におけるプロテスタント基督教の歴史的な理解について」 昭和三五年九月 『ICUアジア文化研究所紀要』 第一号
- 「日本のキリスト教と教団の歴史的意義」 一～三 昭和三七年八月～一〇月 『福音と世界』（三回）
- 「会派問題の反省とその歴史的意義 日本の教会の教会性について」 昭和三七年九月 『福音と世界』
- “The United Church of Christ in Japan”, Institutionalism and Church Unity. A Symposium, ed. by Nils Ehrenstrom and Walter J. Muelder. New York, 1963
- 「高倉徳太郎論」 昭和三九年三月 『福音と世界』
- 「戦後二十年のキリスト教」 昭和三〇年八月 『福音と世界』
- 「植村正久論一序説・伝道者としての生涯」 昭和三〇年一〇月 『福音と世界』
- 「日本キリスト教史上における公会主義」 昭和三一年四月 『山本茂男牧師 献呈論文集、文化対キリスト教の問題』
- 「日本キリスト教史論」序言 昭和三一年九月 『日本の神学5』

七 その他

- 「波多野先生の生涯と学業」 昭和二九年九月 岩波書店 『宗教と哲学の根本にあるもの』
- 「波多野精一先生」 『哲学研究』 第四〇六号, 「波多野先生を懐しみて」 『波多野精一全集』 第六卷月報, 「波多野先生の横顔」 『波多野精一全集』 第六卷月報, 「波多野精一先生」 『日本経済新聞』 昭和四二年四月一日 「交遊抄」, 以上 『追憶の波多野精一先生』 (松村克己, 小原国芳編) に所収, 昭和四五年一月 玉川大学出版部
- 「調和ある教養を(ケーベル先生追想)」 昭和三二年三月 『東京女子大学学報』
- 「Quaecumque sunt vera」 昭和三三年六月 『東京女子大学学報』
- 「ハンス・フォン・シューベルトーその生涯と学業」 昭和三八年四月 シューベルト著 井上良雄訳『教会史綱要』の附録
- “Hans von Schubert as Church Historian: His Life and Scholarship” 1975. 6月 『人文科学研究10』
- 「教会史家としてのハンス・フォン・シューベルト」 昭和五〇年一一月 『日本の神学14』

(加藤武編)